

9月19日(土) <個展初日>

15:00~17:00 **ギャラリートーク**

(石川x松村x宮崎)

17:00~19:00 **オープニングレセプション**

Forbidden Forest

2009年 **9月19** 土日 - **10月18** 日日

開廊時間 ■ 12:00 - 19:00

休廊 ■ 毎週月曜日、火曜日

9月20(月) / 21(火) は開廊いたします。

同時開催 ■ UNISON gallery / NewYork

樹態告知

石川康彦写真展



E & C ギャラリー

石川康彦

ワンダーランドへの
入り口

撮影の仕事で初めて訪れた福井県。

東京から大量の撮影機材を積み込んで、雨の中を一日かけてやってきた私を、撮影の合間に連れ出して、東尋坊に連れて行ってくれたクライアント。そこで釘付けになったのが雄島だった。独りで雪の橋を渡り鳥居をくぐると、そこは、ワンダーランドの入り口だった。

東京の密度ある森を撮影するのが好きだった学生時代の感覚が蘇り、夢中で森を歩き回った。フィルムは残念ながらカラーポジしか持参がなく、カメラは持たず、その森の光景は心にしまっておくことにした。

モノクロームのフィルムを準備し、昔と同じカメラを手に入れたのは翌々年の1999年だった。それから、何回雄島に来ただろう。もう10年以上たってしまった。その間に撮影したフィルムが数千カットになり、本格的にプリントを始めたのが数年前のこと。色々な技術の進歩が、思い通りのプリントを可能にしてくれた。

この写真はデジタルプリントだ。なぜなら、イメージをとことん追い込んでいけるから。暗室では追いきれない世界。デジタルといっても、きわめてストレートな写真なのだが。しかし、この森とデジタルは、どうも感覚的にはそぐわない。だから念写ができそうなフィルムで撮影をし続けてきた。

プリントをコントロール下におくのは難しい。

紙やインクの表現域をつかみ、作品のトーンの幅を正確に知り、その上でプリントをコントロールする。この作品はモノクロに見えるが、実はカラープリントだ。自動で行う調整はナシで、すべてを数値コントロールする。ゾーンシステムをデジタルで活かしている。

そして、最後に心の中にある森のオーラをふりかけると、ネガは作品に成長する。

Ishikawa Yasuhiko ■1953年東京生まれ、1975年多摩美術大学卒業、1978年多摩美大学院修了、1983年石川デザイン事務所設立、1995年日本写真学園顧問、1996年多摩美術大学特別講師、グッドデザイン賞ほか各賞受賞 <http://www.ishikawa-d.jp/>

松村忠祀

樹態告知について

「樹態告知」として写真家石川康彦の作品集が刊行されるが、何れも日本海に浮ぶ福井県三国町安島の雄島の社叢林と出会った写真家の未知への視座である。

雄島には、昭和以降橋によって結ばれていることから昼夜を通して来島することができるため、この写真家も、冬の大陸から襲来する寒い大陸からの季節風の夜も、その人知を超えた大自然の恐怖の中で、雄島の闇と光の実像に出会いつつ、写真のレンズの世界の外側とレンズの内側の写真家自身の視座の風景を対比させながら、撮影の行為を求めてきたことであろう。

この雄島は、往古から日本海の海民の信仰が篤く、季節風による船の難破事故も多くあった。古代には海民の霊も鎮められていた時もあったものと推考することができる。したがってこの島の樹木は、その森羅万象の生・死の詩魂を永年鎮魂しているのかもと思われる。雄島は昼も夜もどことなく神秘的であると同時に摩訶不思議な林層の樹間といった時空の世界で、樹も土も岩・そして光や空気・影も島のすべての存在が、私たちの生命の根底に眠っている無意識の世界のことを反応させてくれる。それは一つには生きることの「喜怒哀楽」の心象の世界を、この作家石川康彦も雄島の林層と出会ったのであろう。まさに東洋的な光と影と闇の中で知られる雄島の太古の装いの社叢林は、照葉樹林の世界を昼夜演じてきているのである。

写真家石川康彦は、語るように『森にたどりつく、光にみちあふれた世界』、「森の微かに漂う死のにおい」、「圧倒的な生命力と獣の・・・」などの感性についても述べているように、この闇間の中でタブやエノキの不思議な生きる樹魂の姿に、そして岡本太郎も感得したヤブニッケの林間が冬の季節風に応じて創造した美女の現身の世界をこの作家は雄島の黒く深淵の常闇の照葉樹林文化の世界としてレンズの外側と内側から写真の視座で試みている。

E&Cギャラリー代表

宮崎光二 展覧会へ寄せて

いくつかの偶然が重なって、今回、石川康彦さんの展覧会を開催することができました。人と人のつながりが、このような形で実を結んだことに、大きな喜びと不思議さを感じています。石川さんには、ニューヨークでの個展と時期が同じになり、大変なご無理をお願いしてしまいました。改めてお礼を申し上げます。

“雄島”は、福井に住む者にとっては大変に身近な存在ですが、しかし、その本当の姿を見ることは希なことのように思われます。そのなかで、10年にわたって撮られ続けた写真の1枚1枚が、私達に深い思いを伝えてくれるようです。それは石川さんの“心”であると同時に、“雄島”の精神でもあるでしょう。撮されたものが、その背後にある、私達に今まで見えなかった実相を赤裸にしてくれるようです。私には、それは“神さびた島”として、改めて感じるものでありました。

私達のギャラリーにとって、福井の風景をテーマとしたこの展覧会の意味はとても大きなものです。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

E&Cギャラリー Phone 0776-27-0207

〒910-0006 福井県 福井市 中央1-20-25 三井ビル 3F

- JR福井駅東口より徒歩5分
- 福井鉄道 福井駅前より徒歩3分
- えちぜん鉄道 福井駅より徒歩6分

